

## 51. 当事者と家族、ボランティアの交流会と施設見学

グループ名 精神保健福祉ボランティア「みらくる会」  
代 表 者 片山 久子

### ① 活動の目的

- ・地域で暮らす高齢者、精神障がい者とその家族、ボランティアが共に輝いて生きていくための居場所を提供する。
- ・精神障がい者の思いを傾聴し、心の安定を図り社会参加できるように支援する。
- ・当事者と家族・ボランティアの交流と親睦をかねて施設見学をし、情報交換やこころのリフレッシュをする。
- ・バザーで販売する小物の作品づくり。

### ② 活動概要

- ・こころに障害をもつ人たちを中心に、誰でもがいつでも気軽に立ち寄り、心安らぐ居場所として開設している。(平成21年9月 開設)

	平成25年度	平成26年度
開設日数	197日	211日
参加者 (当事者)	384人	508人
(家 族)	301人	287人
(地域・行政)	285人	446人
(ボランティア)	757人	839人
合 計	1,727人	2,080人
*参加者は延べ人数		

参加者、中でも当事者や地域の医療機関・行政機関、ボランティアの人たちの参加が増加している

最近では一人暮らしで、話し相手が欲しい人や高齢者の居場所となっている。

- ・週4日開設し、内1日は会員の手作りの昼食を囲み、情報交換や日頃の思いなど気さくに話をしている。食材は自宅の菜園の新鮮な野菜など持ち寄りしている。
- ・精神障がい者の思いを傾聴し、精神安定を図り社会参加できるように支援している。
- ・当事者と家族・ボランティアの交流と親睦をかねて施設見学をし、情報交換やこころのリフレッシュをする。(年1～2回)
- ・運営資金作りとして、会員やボランティアによるアイデアで小物の創作物をつくり、バザーで販売する。
- ・会員のレベルアップを常に考え、行政等が実施している研修会に参加し、自主的にケースの情報を交換するなど研鑽している。(守秘義務はまもられている)

### ③ 決算報告

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000
支出	(1) ゆき作業所見学・交流会 平成27年3月23日 参加者16人	
	バス代	40,000
	ゆき作業所謝礼	3,310
	昼食 (2,000×16人)	32,000
	会場費	3,240
	(2) 若竹会作業所見学・交流会 平成27年6月19日 参加者23人	
	バス代	67,470
	若竹会作業所謝礼	5,000
	昼食 (1,400×23人)	32,200
	写真代	2,530
	合 計	185,750

### ④ 施設見学、交流会に参加して

- ・ ゆき作業所は家族会が中心に運営されていました。家族も高齢となり、交通の不便な地域ですがボランティアに支えられて頑張っておられた。
- ・ 作業はお茶の袋詰めなどできることをコツコツしておられ、私も元気をもらいました。
- ・ 天候にも恵まれ若竹会（作業所）のメンバー（当事者）さん達の落ち着きと、笑顔は指導員さんのリードがよいからだと思いました。
- ・ 美味しいケーキやクッキーを指導員さんのもと製造販売されていた。そのケーキとコーヒーをいただきながら交流しました。  
メンバーさん達の「ここに来るのが楽しい」の声を聞いて私たちもうれしくなりました。
- ・ ほとんど家の中ばかりなので、外出できたことたのしくリフレッシュ出来ました。  
また、次の機会を楽しみにしています。
- ・ 久しぶりに皆さんと遠出をして、気兼ねなくいろいろお話ができました。
- ・ 若竹会（作業所）も良かった。みんな一生懸命に生きておられる。わたしも健康に感謝しながら頑張ります。
- ・ 竹原は朝ドラ「マッサン」があつてから、にぎやかで観光客とも交流できました。

### ⑤ 今後の課題

- ・ 利用者にとって居心地の良い場所づくりをしていくために、どのような取り組みがあるか。（参加者が増加傾向にあり、場所が狭くゆっくりできない。）
- ・ ボランティアの人材確保をどのようにすればよいか。

\*この度、大同生命厚生事業団助成をいただき、活動の目的の一つ当事者と家族、ボランティアの交流会と施設見学を実施出来ました。こころからお礼申し上げます。

3月23日(月) 神石高原町 ゆき作業所 研修



6月29日(月) 竹原市 若竹作業所 研修



精神保健福祉ボランティア みらくる会 活動場所「みらくる」



活動 相談



活動 昼食



活動 絵手紙

